

取材を終えて

## 一人ひとりが何かをすれば、 きっと大きな力になる

今回の取材を通して、多くの在住外国人、特に同世代の人にお話を伺いました。どの人も、日本で生活をする中で目的意識がはつきりしていたのが、印象的でした。

特に、「学ぶ」ことを選んだ学生たちは、一人ひとりがなぜ学ぶのかという理由をしっかりと持っていました。日本で学ぶことは彼らにとってさまざまな制約があり、大変だと思えます。しかし、そういう環境であるからこそ、彼らはしっかりと自己や目的を持ち、日本での生活を営んでいました。

また、学ぶ在住外国人をサポートしている皆さんにもお話を伺いました。多くの人はボランティアとして、在住外国人のお手伝いをしてみえます。そんなボランティア、一人ひとりの心遣いが、在住外国人の救いになっています。

今回お話を伺ったうちの一人の渡辺エミリアさんは、子ども連れで日本にやってきました。初めて



えてくださったのは、近所の人だったそうです。ごみの出し方、地域生活のルール、子育てなど、同じ住民として、また同じ一人の母親として、アドバイスをしてくださいました。

お話を伺う中で、どの場面でも力になっていたのは、「一人ひとりの力」です。一人ひとりが少しずつ何かをすれば、きっと大きな力になり、さらに多くの人にも広まっていくと思います。

今回は、「教育」という事に関して取材を進めてきましたが、共に

の土地での馴れない生活、毎日の重労働、子どもの教育。一人で抱えるには、重すぎる荷でした。そんな中で特に生活を支

暮らしていく中で、まだまだ多くの問題・課題があると思います。今後は一人ひとりが問題を知り、知恵を出し合い、協力をして、解決に進めて行くことができると思います。

まだまだ「共生」にはほど遠いですが、地域に住む私たち住民一人ひとりが、このような小さな心配りをして、よりいっそうお互いに住みやすいまちにしていきたいと思います。



田口大輔

田口君、ごくろうさまでした

今夜も、市民まちづくり推進室にある広報編集用パソコンの前で、一人の若者が編集をしています。

田口君です。彼がこの特集の企画書を出して、3カ月がたち、一つの記事になりました。

学校の行事に参加しながら、ブラジリアンスクールなどの訪問取材や編集作業は、大変だったと思います。

田口君、ごくろうさまでした。さて、今、私たちは考えます。「まちづくり」って、何だろう？

まちはだれが、作るのでしょうか。行政が？市民が？いいえ、行政と市民が一体となり、だれもが暮らしやすいまちを作るのではないのでしょうか。

行政の情報を分かりやすく皆さんに伝え、共有することにより、明日のまちをつくることになるのではないのでしょうか。分かりやすく伝えるために、市民の目線から行政の情報を伝えたいと思います。

これからも、一人でも多くの皆さんに、田口君のように市民の目線からまちを見ていただきたいと思います。